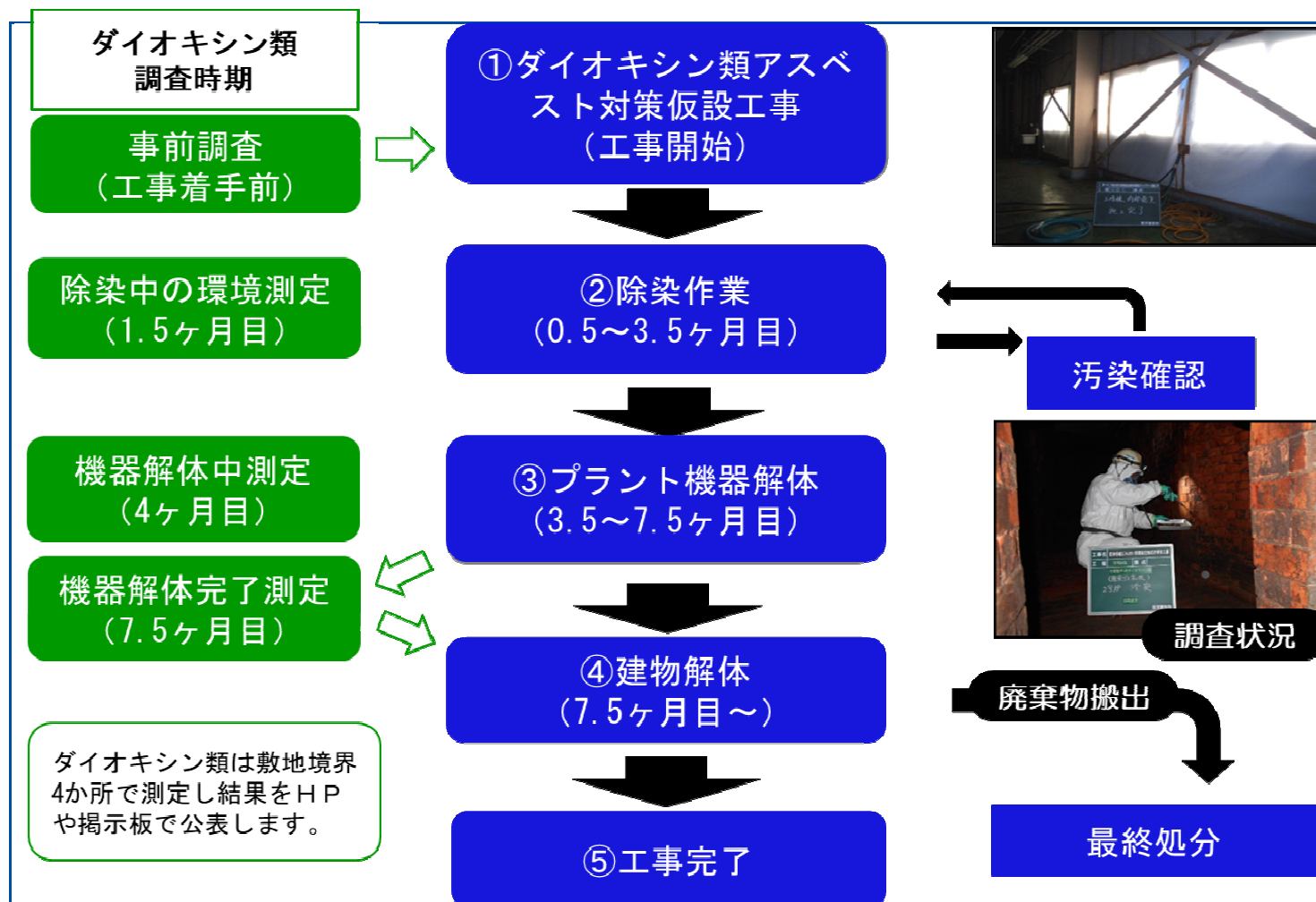


6. 解体工事

1. 解体施工要領（焼却施設解体手順）

「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱（H26.1）」に基づき法令に定める内容を順守し行う

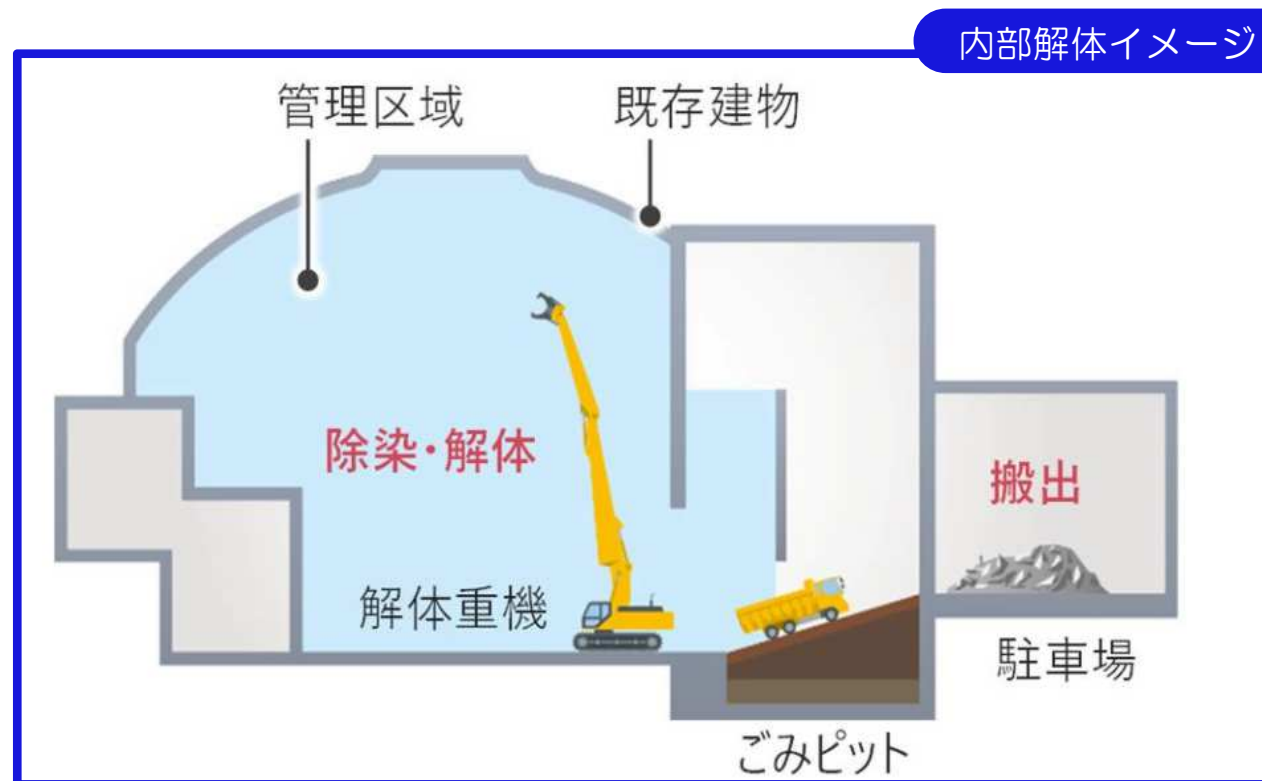


6. 解体工事

2. 解体施工要領（内部解体手順）

さらに、除染期間中は既存建物を活用してばく露防止の管理区域を明確化することで、ダイオキシン類の暴露防止を努めてまいります。プラント設備の解体を既存建物を残した状態で行うことにより、除染・解体・搬出の工程を建物内部に限定することが可能となります。

重量物の解体を建物にて区画する事で作業への安全を確保し、外部への飛散対策が両立出来ます。

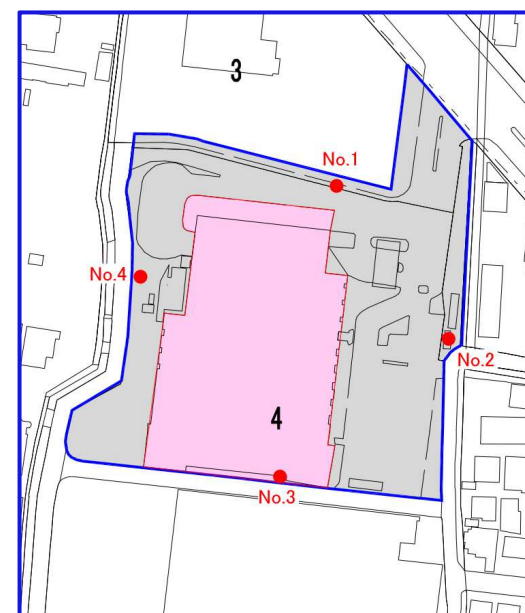


6. 解体工事

3. 工事着手前のダイオキシン類濃度測定値

解体工事開始前のダイオキシン類濃度の測定を実施し、測定結果は基準値を下回る値でした。
施工中(2回)と解体終了時に再度実測いたします

ダイオキシン類濃度測定位置図

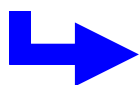


大気中のダイオキシン類の環境基準
(ダイオキシン類対策特別措置法より)

第6条

耐受一日摂取量

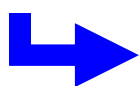
・・・人の体重1キログラム当たり4pg 以下



人が生涯にわたって継続的に摂取したとしても健康に影響を及ぼすおそれがない一日当たりの摂取量

第7条

耐受一日摂取量を超えないための基準として、**環境基準値**が定められています。



大気中のダイオキシン類の濃度
0.6 pg-TEQ/m³ 以下

番号	測定場所	ダイオキシン類 実測濃度 (pg-TEQ/m ³)
1	北側	0.021
2	東側	0.018
3	南側	0.018
4	西側	0.016

6. 解体工事

4. アスベスト（石綿）除去工事

石綿含有廃棄物等処理マニュアル（環境省R3.3）に基づき、適正な処理を実施します。

- お知らせ看板設置
- 事前清掃
- 作業場所養生
- 石綿含有建材撤去（**噴霧器**等で湿潤し、飛散を防止しながら実施）
- 廃材搬出



【施工準備】

除去を行う前に作業場所の養生を行い内部を負圧に保ち、除去材料の湿潤化を行うことで、埃の飛散と外部への漏れを防止します。



石綿看板
(お知らせ看板) ※参考

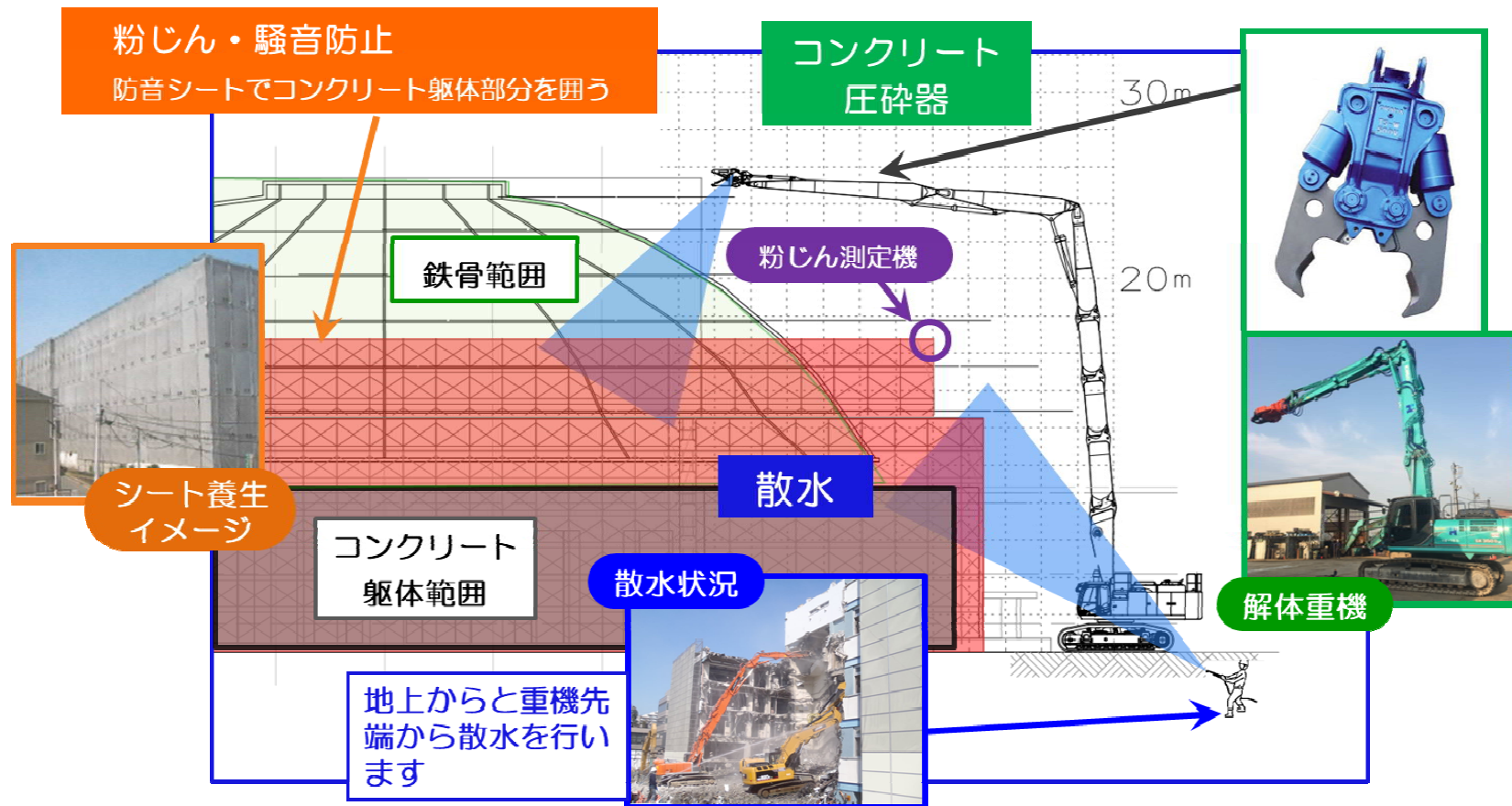
作業場所養生イメージ

噴霧器
(除去作業中の湿潤)

6. 解体工事

5. 粉じん対策

外部足場への防音シート張りりと、徹底した散水で発生する粉じんの抑制に努めてまいります。



- 風速の10分間平均値が10m/sを超えたら、飛散物等の養生確認を行い作業は中止します。
- 内部は建物外壁を残した状態で解体を行うことで、粉塵の飛散を防止する効果があります。

7. 建築・プラント工事

基礎部施工イメージ

杭工事



コンクリート工事



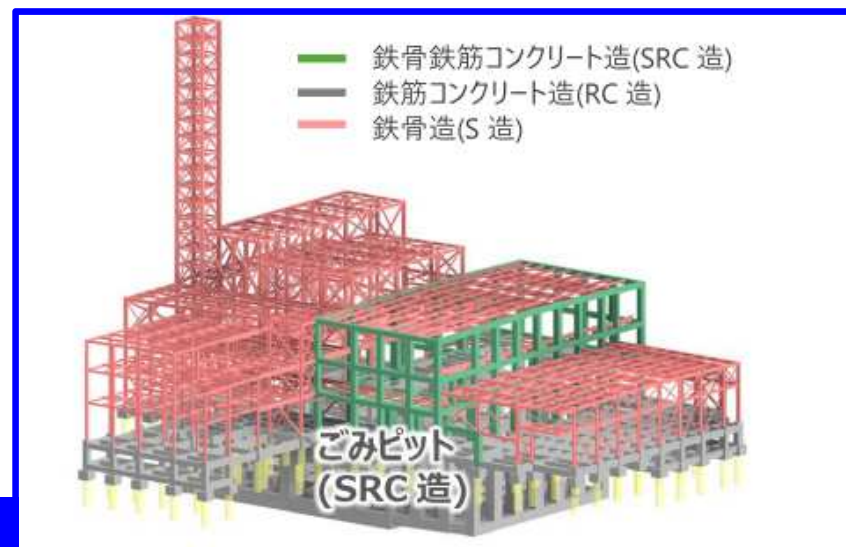
7. 建築・プラント工事

建物施工イメージ

鉄骨工事



建物コンクリート
打設状況

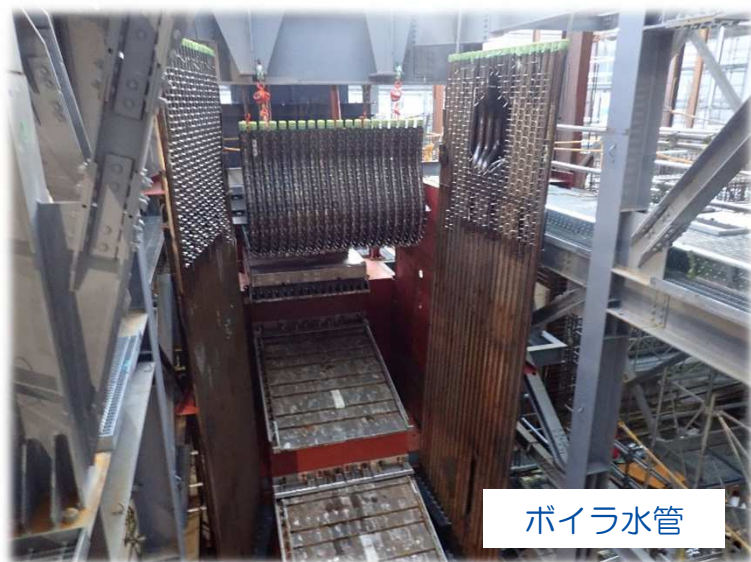


建物イメージ

7. 建築・プラント工事

プラント（焼却炉など）イメージ

プラント工事



2025年7月～2027年3月

7. 建築・プラント工事

完成イメージ

完成状況



8. 作業所の安全・環境管理

◆安全確保について

- (1) 労働基準監督署等関係諸官庁と協議の上、ダイオキシン対策、アスベスト対策、仮設足場等の安全設備の設置を行います。

◆環境保全について

- (1) 関係法令に基づき有害物質を除去・処分します。
- (2) コンクリート造の解体、アスベスト作業主任者、ダイオキシン類業務の作業指揮者等、適正な有資格者を配置し、各作業員に対し教育を行います。
- (3) 足場への防音シート張り、低騒音型の重機の使用による騒音対策の実施を行います。
- (4) 作業時の車両のアイドリングストップなど、騒音・排気ガス対策を実施します。

近隣住民の皆様、第三者ならびに労働者の安全確保と環境保全に努めます。

最後に

近隣の皆様にご迷惑をお掛けしないよう安全に
工事いたします。

皆さまのご理解とご協力を
お願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

過去の地盤沈下の発生した範囲

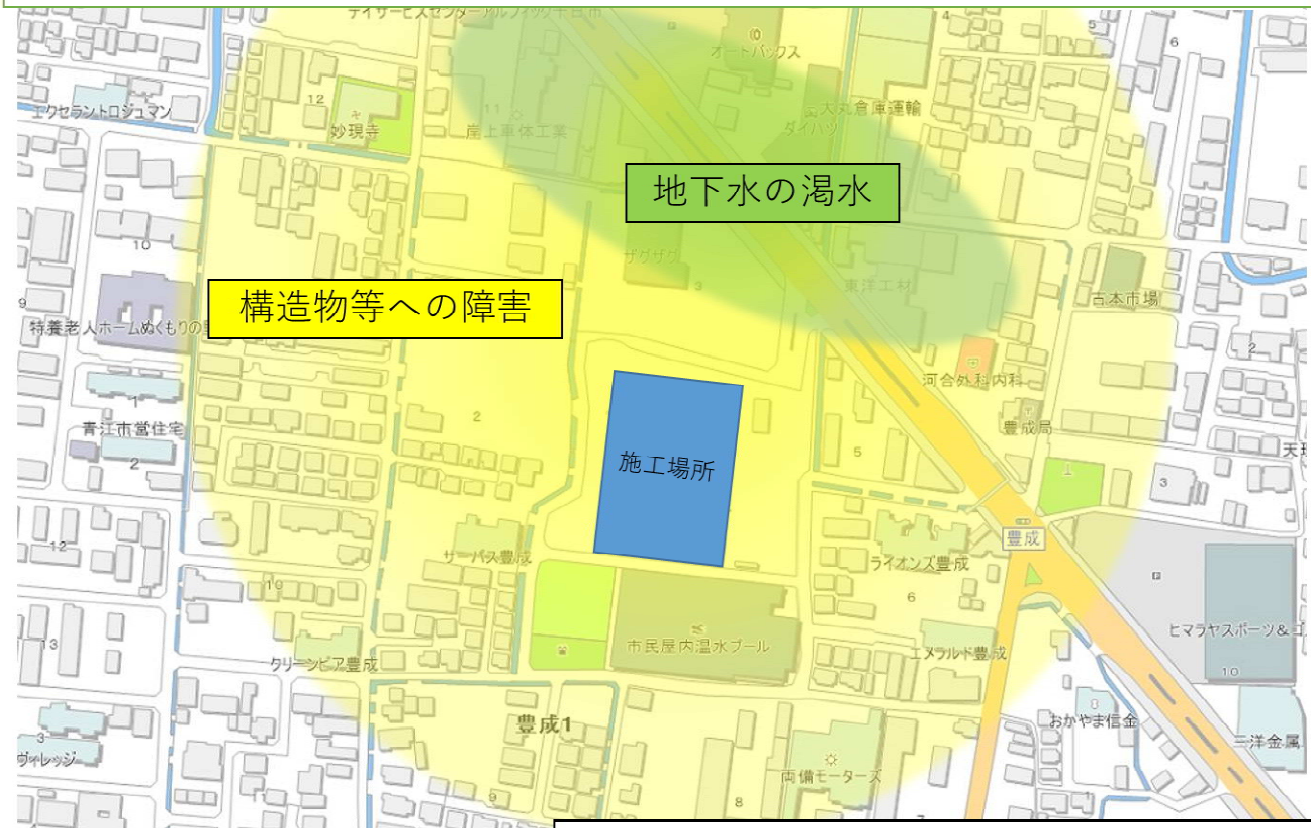
既存の岡南環境センター建設時に過度な地下水のくみ上げにより工事用地周辺に出た影響（地盤沈下・構造物の障害・地下水の濁水）を記載した範囲図になります。

今回の工事では既存建物周囲に遮水壁を設置（P9）する事で遮水壁内の地下水はくみ上げますが、遮水壁外部の地下水位は下げない対策を行いますので、地盤沈下を発生させません。

敷地内の遮水壁外側に観測井を設置し地下水位を連続して監視します。地下水位低下時には地下水位を回復させる措置を速やかに行い、周辺に影響が出る前に対応します。

現場周囲より50～100m程度の範囲内にて地盤高さの測定（P10）を行い、工事区域外の地盤の変位の有無を確認します。

昭和51年 岡南環境センター建設時に発生した 地下水位低下による影響範囲



※実際に影響があったのは、着色箇所的一部分です。
※個人の財産にかかわることですので、詳細な範囲の公表は控えさせていただきます。

煙突排ガスの排出による生活環境影響調査結果（令和2年度）

ダイオキシン類（DXN）の予測結果

予測地点	年平均値 (pg-TEQ/m ³)			環境基準 (pg-TEQ/m ³)
	現況濃度 ①	寄与濃度 ②	予測濃度 ①+②	
青江3号公園	0.024	0.000034	0.024034	年平均値 0.6以下
平井公園	0.024	0.000015	0.024015	
旭西排水センター	0.024	0.000039	0.024039	
福富西町	0.024	0.000014	0.024014	
最大着地濃度地点	0.024	0.000057	0.024057	

浮遊粒子状物質（SPM）の予測結果

予測地点	年平均値 (mg/m ³)			日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	環境基準 (mg/m ³)
	現況濃度 ①	寄与濃度 ②	予測濃度 ①+②		
青江3号公園	0.018	0.000007	0.018007	0.046	日平均値の 2%除外値 0.10以下
平井公園	0.018	0.000003	0.018003	0.046	
旭西排水センター	0.018	0.000008	0.018008	0.046	
福富西町	0.018	0.000003	0.018003	0.046	
最大着地濃度地点	0.018	0.000011	0.018011	0.046	

注) 1.表中の現況濃度は、岡山市による「南輝小学校」における平成30年度の年平均値を示す。

2.最大着地濃度地点の値は、事業計画地周辺で最も高濃度となる煙突から612mの地点の結果を示す

ダイオキシン濃度測定結果

本事業と類似した工事工法における他現場でのダイオキシン濃度測定の結果（事業者実績）

	実施年度	単位	地点	基準値	解体前	除染中	解体中	解体後
自治体A	平成20年度	pg-TEQ/m ³	地点①（大気）	0.6	0.014	－	0.020	0.038
			地点②（大気）		0.014	－	0.027	0.034
			地点③（大気）		0.015	－	0.023	0.034
			地点④（大気）		0.012	－	0.021	0.041

本事業と類似した工事工法における他現場でのダイオキシン濃度測定の結果（岡山市実績）

	実施年度	単位	地点	基準値	解体前	除染中	解体中	解体後
瀬戸クリーンセンター	令和2年度	pg-TEQ/m ³	東（大気）	0.6	0.0053	0.0067	－	0.006
			西（大気）		0.0059	0.005	－	0.0055
			南（大気）		0.0052	0.0085	－	0.0048
			北（大気）		0.0047	0.0054	－	0.007

本事業のダイオキシン濃度測定の結果

	実施年度	単位	地点	基準値	解体前	除染中	解体中	解体後
岡山市（本事業）	令和4年度	pg-TEQ/m ³	東（大気）	0.6	0.018			
			西（大気）		0.016			
			南（大気）		0.018			
			北（大気）		0.021			

※環境省HPにある報道発表資料に、「令和2年(2020年)度ダイオキシン類に係る環境調査結果について」があり、本調査では全国の614点(1,745検体)の常時における大気中のダイオキシン類の濃度調査結果が掲載されています。本結果を参考に下記に示します。

濃度範囲	pg-TEQ/m ³	0.0025～0.33	(年間平均値の最小値および最大値を示す)
濃度平均	pg-TEQ/m ³	0.017	(年間平均値を示す)

観測井について

